

答え合わせ・解説

| | | |
|----|--|--|
| 問1 | 答え 1 国司 | 大宝律令に基づき、地方は「国・郡・里」という単位に区分されました。このうち、最上位の行政単位である「国」の長官として、都の中央政府から派遣された官吏が国司です。国司は任期が定められており、一定期間ごとに交代する仕組みとなっていました。 |
| 問2 | 答え 1 東大寺 | 聖武天皇は、仏教の力によって国家の安定をはかる「鎮護国家」の思想に基づき、全国に国分寺・国分尼寺を建てました。その総本山として都の平城京に建立されたのが東大寺であり、社会不安を払拭するために大仏が造立されました。 |
| 問3 | 答え 1 自国内の統治の正当性を高めるとともに、中央集権的な国家体制を強化し、周辺諸国や民衆に対して権威を示すため。 | 古代の王たちが中国の王朝から金印を授かったのは、中国の皇帝から王としての承認（冊封）を受けることで、国内の他の勢力に対して自分の支配の正当性を誇示する目的がありました。また、飛鳥・奈良時代に貨幣が鋳造された背景には、唐の制度に倣った律令国家を建設する過程で、国家の権威を示すとともに、官人の給与支払いや平城京造営の費用に充てるという政治的な目的がありました。 |
| 問4 | 答え 1 唐の国際的な文化の影響を強く受け、大規模な役所や寺院が整備された。 | 平城京が営まれた奈良時代は、遣唐使を通じて唐の進んだ政治制度や国際色豊かな文化が積極的に取り入れられた時期です。都には大極殿などの官庁施設のほか、東大寺をはじめとする大規模な寺院が建立され、律令国家の威信を示す場となりました。中国の都市とは異なり、都市全体を囲むような強固な城壁（郭城）は日本では発達しませんでした。 |
| 問5 | 答え 1 仏教の力で国を護り、伝染病の流行や政治的な混乱による社会不安を鎮めようとした | 奈良時代、日本では天然痘の流行や藤原広嗣の乱といった深刻な社会不安が続いていました。聖武天皇は、仏教の力によって国家の安定を祈る「鎮護国家」の思想を重視し、全国に寺院を設置することで体制を整えようしました。選択肢にある禅宗や一向一揆、浄土宗などは、いずれも鎌倉時代や室町時代といった後の時代の出来事に関連するものです。 |
| 問6 | 答え 1 遣唐使の派遣などを通じて、唐の文化やシルクロードを経由した諸国の文化が日本に流入したため | 奈良時代は遣唐使が頻りに派遣され、当時の唐の都である長安を経由して、西アジア（ペルシア）やインドなどの文化が日本に伝わりました。この国際的な影響を強く受けた文化を天平文化と呼びます。正倉院の宝物は「シルクロードの終着点」とも称され、当時の広範な文化交流を現代に伝える貴重な資料となっています。国風文化は平安時代、日明貿易は室町時代、南蛮貿易は安土桃山時代のことであるため混同しないよう注意が必要です。 |
| 問7 | 答え 1 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の歌が収録されている点 | 万葉集には、北九州の警備にあたった人々の心情を詠んだ「防人の歌」や、東日本の民衆の暮らしを詠んだ「東歌（あずまうた）」などが含まれています。このように名もなき人々の素朴で力強い感情が収められている点は、後の時代の貴族中心の勅撰和歌集には見られない、この時代特有の大きな特徴です。 |
| 問8 | 答え 1 口分田 | 律令制度のもとでは、すべての土地と人民は国家のものであるとする「公地公民」の原則がとられました。これに基づき、政府は戸籍に登録された6歳以上の人々に、性別や身分に応じて「口分田」と呼ばれる土地を貸し与えました。この土地を貸し与え、死後に回収する仕組みを班田収授法といいます。 |
| 問9 | 答え 1 鎮護国家の思想 | 8世紀の日本では、疫病の流行や政治的な混乱が続いていました。聖武天皇は、仏教の力によってこれらの災いから国家を守り、安定させようしました。この「仏教が国を守る」という考え方は鎮護国家と呼ばれ、当時の国家的な仏教政策の根幹となりました。 |